

日本口蓋裂学会学術調査委員会報告  
「口唇裂・口蓋裂児出生に関する実態調査（2013年・2014年）まとめ」

データの収集と取扱い等について

調査にご協力いただきました施設の皆様に心より御礼申し上げます。なお、本調査は協力施設で管理した症例のデータであり、全出産をもとに行っていませんので、データを扱う場合にはご注意ください。この調査結果をもとに、今後調査の継続を検討しております。引き続きよろしくお願いたします。

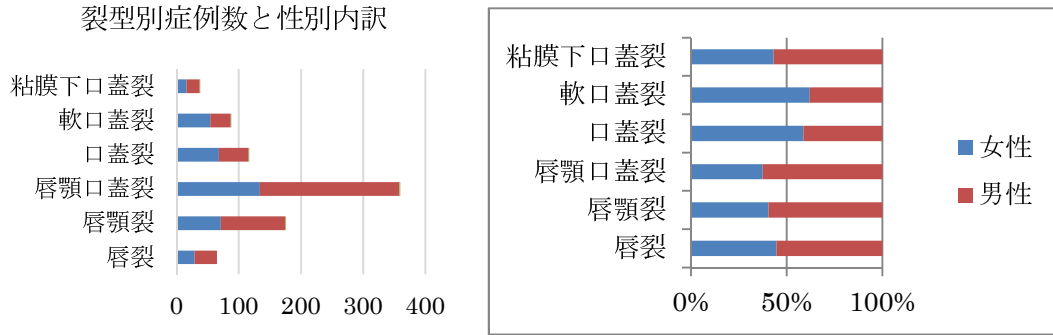
2019年4月

日本口蓋裂学会 学術調査委員会 一同

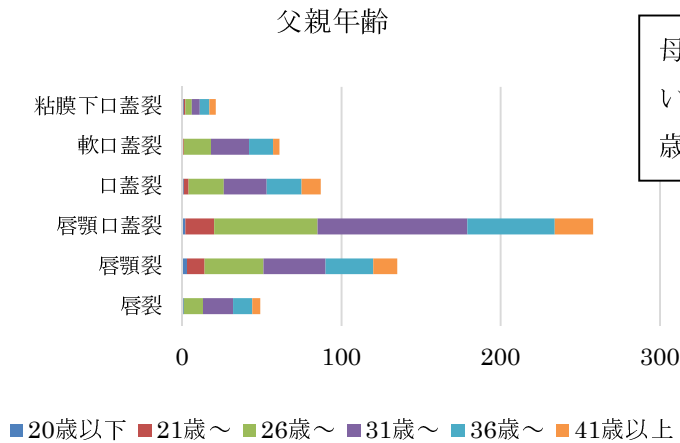
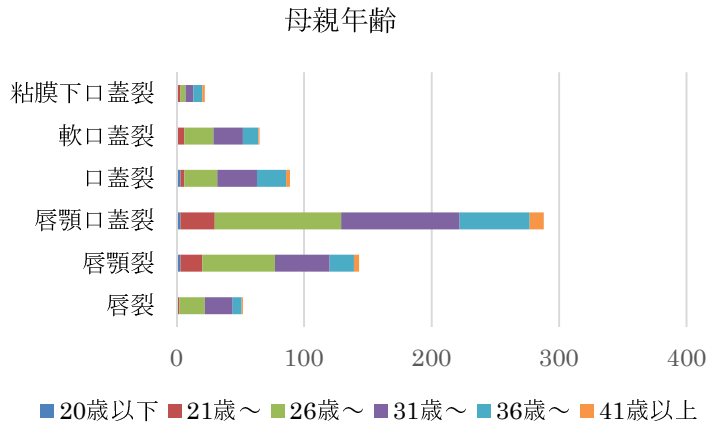
目次

- 1、各症型における男女症例数と比率
- 2、両親の年齢別
- 3、出生時体重
- 4、患側
- 5、アプガースコア
- 6、出生前診断
- 7、出生順・同胞発生・家族内発生

## 1、各症型における男女症例数と比率

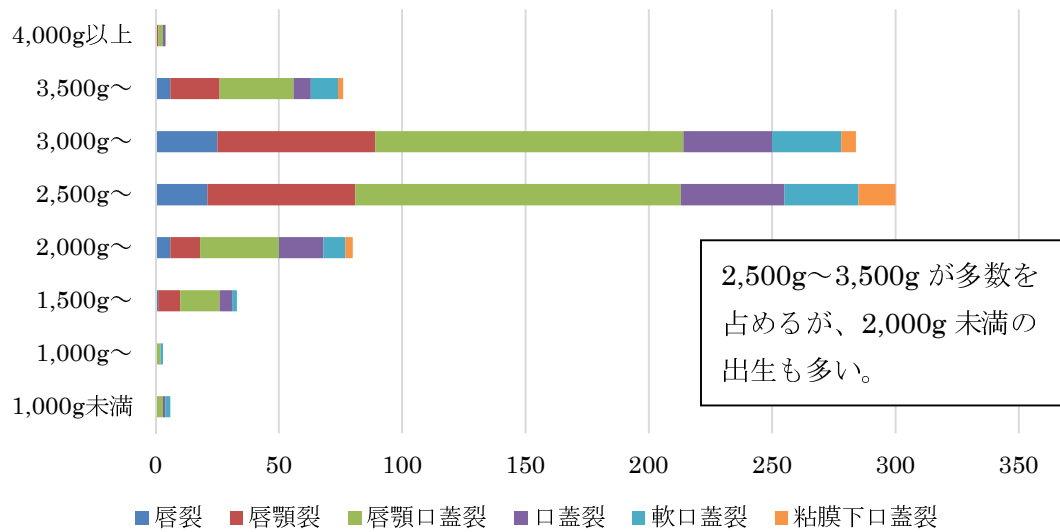


## 2、両親の年齢別

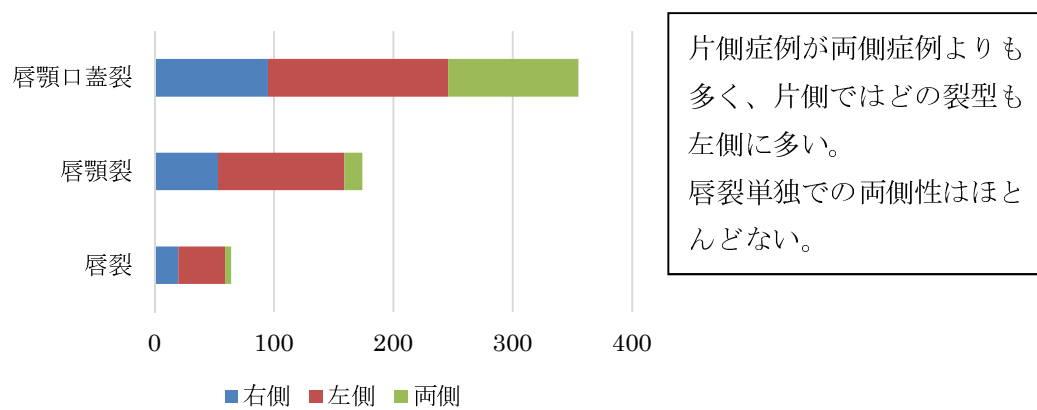


母親も父親も、またどの裂型についても 26歳～35歳が多い。36歳以上の出産も比較的多い。

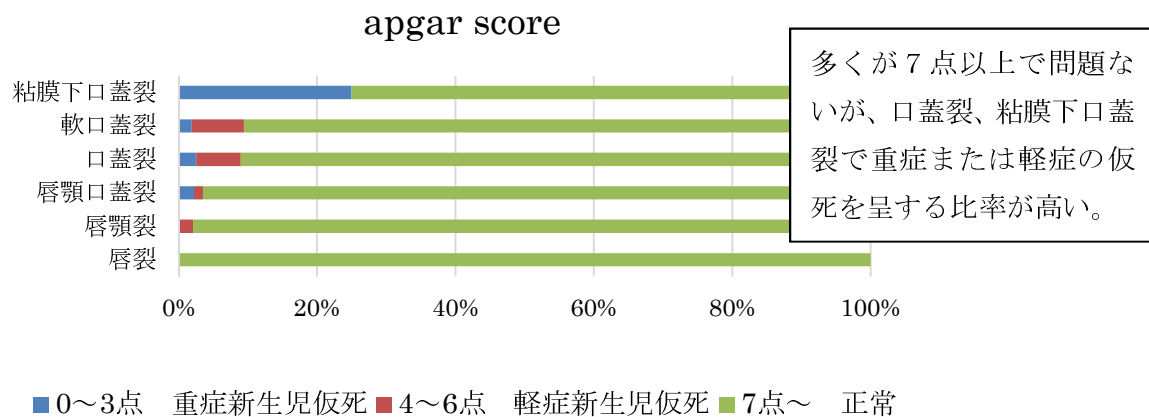
### 3、出生時体重



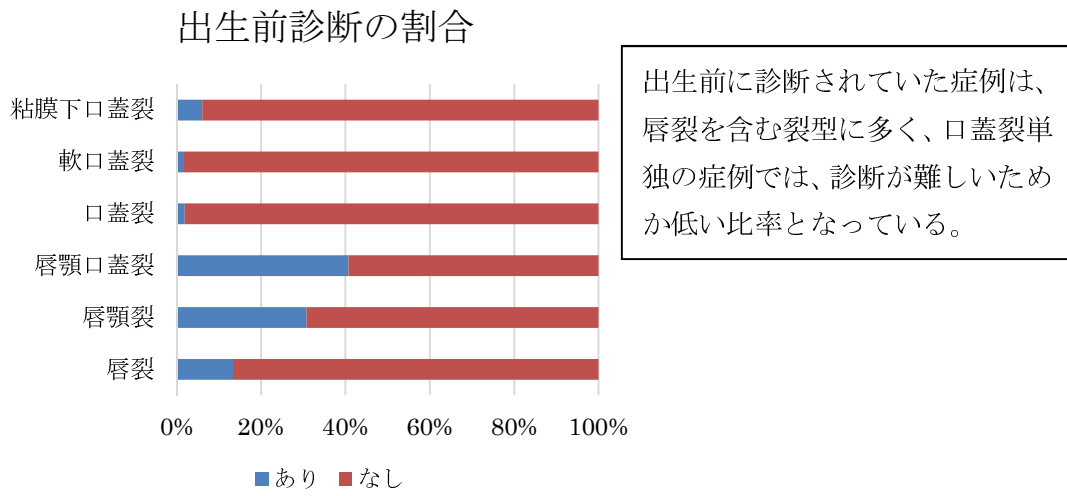
### 4、患側



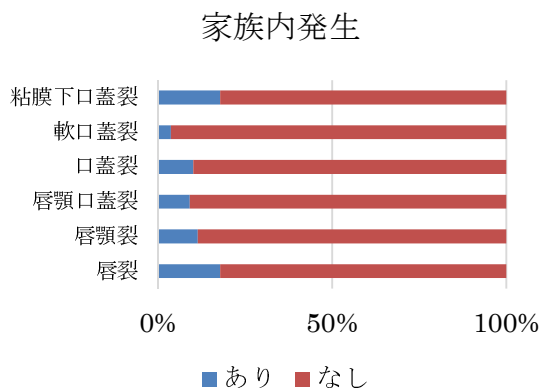
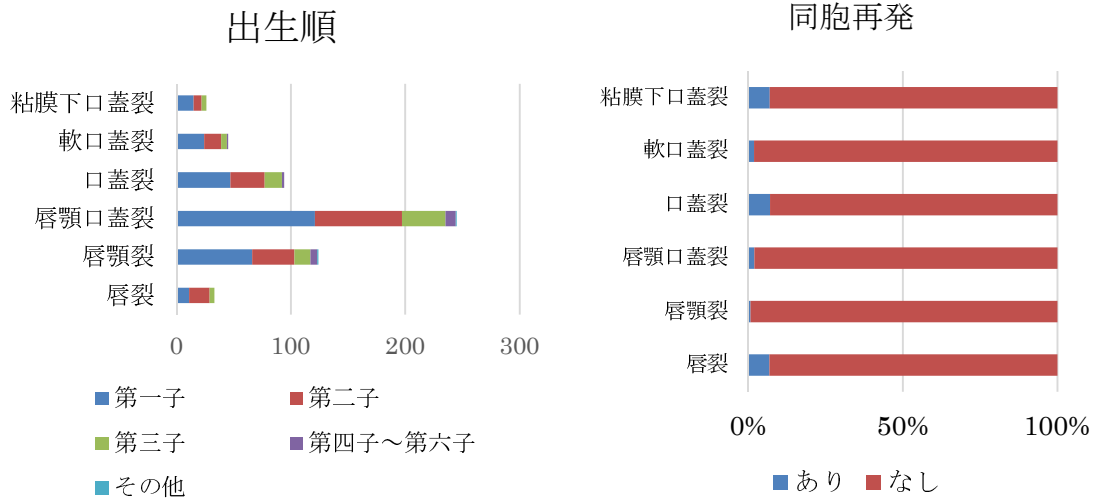
### 5、アプガースコア



## 6、出生前診断



## 7、出生順・同胞発生・家族内発生



第一子、第二子が多いが、同胞内での発生率を見ると、唇裂または口蓋裂単独で若干高くなっていた。家族内発生は唇裂、粘膜下口蓋裂で多くなっていた。